

地域と協同の 182号 研究センターNEWS

2019年10月25日発行

「人口減少社会」の持続可能性と学生の職業選択感

向井 忍 地域と協同の研究センター専務理事

今年、地域と協同の研究センターは6つの大学で協同組合や非営利組織の活動を紹介する授業に関わっている。前期：名古屋市立大学「現代社会と地域と人のつながり」向井清史先生（ゲスト講師が登壇）80人、中京大学現代社会学部「キャリア構想」小木曾洋司先生（一コマを担当）90人、後期：名城大学人間学部「ボランティア入門」向井忍担当（ゲスト講師が登壇）180人、金城学院大学人間科学部「協同組合論」朝倉美江先生（ゲスト講師が登壇）90人、愛知大学「福祉社会学」70人、「入門演習（社会学）」30人、櫻村愛子先生（各3回/ゲスト講師が登壇）、三重大学人文学部「協同組合論」青木雅夫先生（ゲスト講師が登壇）50人。他に「協同組合インターンシップ」での概要説明もあり、延学生数は600人近い。2012国際協同組合年を機に「大学で協同組合を学ぶ授業を設けたい」と話し合い2014年に名市大で開講してから6年で着実に広がってきたのは、それだけ豊富な実践を語れるゲスト講師の方々（多くは研究センター会員）の協力のおかげである。

授業内容等は別の機会に紹介するとして、本稿では、その際に三つの大学で学生に行った「どんな仕事に付きたいか」という仕事観アンケートの結果が興味深いので紹介したい。「人口減少社会」が、「産業（グローバル・内需）」・「労働（高度人材・AI・外国人雇用・非正規化）」「地域（都市への人口流出・コミュニティの維持）」それぞれに大きな変化を及ぼすことを説明したうえで、この三つの軸に対応する10の選択肢から「社会で重視してほしい仕事」と「自分の考えや価値観にあった仕事」を選んでもらった。その結果は「社会で重視」と「自分の考えや価値観」に分離が見られた（表参照）。そして、「三大都市圏の企業」よりも「家族の近くで規模によらず社会に役立つ会社の仕事」を選択し、「安定した仕事」「地域・社会での協働に関わる仕事」などの希望が高い。学生の価値観を応援したいと思いつつ、翌週A大学で結果を報告したところ、「自分たちは社会に求めることから逃げている」という感想が少なくなかった。2040年に65歳以上が35%となる。学生が40歳になる時、出会う二人に一人が65歳を超え、総人口は1.1億人（中位予測）になり、更に「減少が自明」の社会に一変している。この転換期に、学生が自信を持ってチャレンジできる職業をどう示すのか。地域経済をどう維持するのか。社会と政治をどう変えるのか。そのために協同組合はどう関わるのか。人口減少社会の持続可能性について、ともに希望を示したい。

	社会で重視			自分の価値観		
	A大学	B大学	C大学	A大学	B大学	C大学
(1)海外に進出し、国際的にも成長していく企業での仕事	63%	50%	59%	11%	36%	27%
(2)国内に住む人々の、生活や消費力をたかめる仕事	64%	61%	57%	43%	48%	38%
(3)高度な仕事も担えるAI(人口知能)ではできない仕事	53%	50%	55%	33%	45%	42%
(4)企業が求める「高度人材」や「柔軟な働き方」をする人材としての仕事	32%	39%	35%	31%	39%	36%
(5)若者も高齢でも、男性も女性も、多文化(多国籍)で働ける仕事	67%	64%	69%	34%	39%	51%
(6)多くの人があつまる三大都市圏に、営業所や本社がある会社の仕事	10%	2%	12%	31%	9%	27%
(7)実家や家族の近くで、規模にかかわらず社会に役立っている会社の仕事	30%	50%	30%	61%	55%	53%
(8)自然に近い環境のところで、自分らしい生活設計ができる仕事	17%	23%	16%	43%	36%	36%
(9)安定していると思われる、知られた企業や公務員としての仕事	15%	5%	19%	68%	41%	55%
(10)地域・社会で、市民・企業・団体との協働を促進できるような仕事	52%	52%	39%	44%	50%	25%

目次

1	「人口減少社会」の持続可能性と学生の職業選択感 向井 忍 地域と協同の研究センター専務理事
2	生協の（未来の）あり方研究会」研究集会 第二次共著「協同による社会デザイン」発刊記念 第二次共著の視座をとおし、東海地域の共同購入事業（生協）の今を捉え直し、あり方・革新性を考え合う一次報告
5	情報クラブ
7	10月研究センター活動
8	企画案内「わたしのサードプレイス」、11月の活動予定

「生協の（未来の）あり方研究会」研究集会 第二次共著「協同による社会デザイン」発刊記念
**第二次共著の視座をとおり、東海地域の共同購入事業（生協）の今を捉え直し、
 あり方・革新性を考え合う**
 文責：大島三津夫（事務局）

2019年9月1日（日）13:00～16:00に、「全労済金山会館ワークライフプラザれある」に於いて、「生協の（未来の）あり方研究会」研究集会を開催しました。その概要を報告いたします。

生協の未来のあり方研究会

『協同による社会デザイン』の問題意識と提起

中京大学現代社会学部教授 小木曾 洋司 氏

1. 『協同による社会デザイン』の発刊の意図

協同組合、生協が、実際に今の社会でどうい
 う人のつながりをつくっていくのか、その機能
 をどう持っているのかということ。特に組
 合員活動の重要性です。そして職員の果たす役
 割が重要だということです。職員を媒介して社
 会性を獲得する、そういう組合員活動が重要に
 なっています。共通の課題を解決する担い手と
 して、生協はどのような運動事業が可能なのか
 ということの研究するのが、「生協のあり方研究
 会」です。その成果として今回の本もあります。

2. なぜとくに環境問題を取り上げたか

環境問題は、1980年代以降のグローバル経済
 の進展による、貧困・格差の拡大、平和の問題、
 民主主義の破壊を背景としているということ
 です。地域社会で文化が破壊されると、必ず環境
 が変わります。環境問題は3つの問題が内包さ
 れています。

3. 対抗力（社会の構想力）としての

協同組合の役割

そして、世界は環境破壊の方向へ向かってい
 る状況です。その中で、協同組合の立ち位置と
 役割が出てきます。グローバリゼーションの中
 で、長期雇用を放棄し、非正規化しました。婚
 姻率が下がり、少子化につながります。格差の
 拡大、貧困の問題、社会の分断、これは必ず地
 域社会に現れます。対抗原理としての協同組合
 の価値を基本にした社会のデザインを形にして
 いかなければならないと思います。

4. 対抗原理としての

協同組合の価値の具体的機能

社会問題を認識できるような社会的関係資本
 を、生協がどんなふうに維持しているか、そこ
 に、組合員活動が位置付けられます。地域の人
 同士が知り合う場をつくる、そのツールとして
 生協も機能するということです。地域があつて、
 生協があつて、いろんな社会性を広げてくれる

わけです。地域社会というのは、生活条件、生
 活のありかたを左右する、総合的な条件、環境
 です。生協は、今、これを組合員活動、事業で
 つくっていると思います。そして、これからま
 すます必要になり、新しい市民的なスキルを生
 協の職員はつけて欲しいと思います。

格差社会と生協

就実大学経営学部経営学科准教授

加賀美 太記 氏

1. 進行する格差社会

格差社会をとらえる際に使われる指標が、所
 得分配の不平等を示すジニ係数です。ジニ係数
 は、一人が大半を所有し、残りの人は全部持っ
 ていない状況を1と0とし、1に近づけば近づ
 くほど格差が大きいことを示す指標です。1980
 年代から、ジニ係数は右肩上がりです。90年代
 から、実際に個々人が受け取った当初所得係数
 は上がり始め、非常に格差が大きい状況になっ
 ています。税金や社会保障で再分配が行われて
 いますが、格差が大きくなっていることはほぼ
 衆目の一致するところです。格差が社会にもた
 らす影響はいろいろあり、特に深刻なのは社会
 の流動性が低下し、様々な諸相で現象する格差
 そのものを再生産する構造が問題です。

2. 若年世代の状況

こうした状況の中で、若年世代は、それなり
 にボリュームがあります。1947年から1949年
 生まれの団塊世代をコアとする65歳～74歳の
 高齢者層は、1,700万人位います。ただし、1965
 年から1979年生まれの40～54歳の層（ジェネ
 レーション世代）の人は2,700万人、1980年か
 ら2000年生まれの20歳～39歳の層（ミレニ
 アム世代）は2,800万人います。人口割合では、
 社会のボリュームゾーンは若年層、壮年層の人
 たちです。問題は個々の生協の組合員の構成比
 率が、この数字と照らし合わせてどうずれてい
 るかということです。

3. 生協の事業的な可能性

では、生協にどんな事業的な可能性があるの
 でしょうか。格差の下で助け合いや協同が再評

働かされているということです。大事にしたいのは、生協の独自性、ソーシャルアイデンティティは何なのかということです。そして、組合員にどう活躍してもらうのか、これを事業デザインの中に組み込めるかどうかということです。

4. 生協への提言

世界で流れる情報量が爆発的に増加し、2000 年代の後半位から消費者の処理能力をはるかに越すデータとなりました。消費者は自分ごとと仲間ごとにしに関心を持てなくなり、世の中で起こっていることへの関心は機能しなくなっています。そうした中で、マーケティングの領域では、ファンベースという提言が出されています。既存のファンを柱に成長を目指すマーケティングで、昔生協がやっていたことです。そして、ファンベースの出発点として職員とちゃんと向き合いなさいという提言がされています。

共同購入事業（生協）の今と未来

…生協らしい存在価値の創出に向けて

兼子 厚之 氏

1. はじめに

…問われている生協運動の第三の段階

戦後の生協運動は 1960 年代半ばまで労働運動に支えられてきました。1965 年、京都生協の前身である洛北生協が京都大学生協の支援で成立して、初めて市民参加型の生協ができました。それは 1978 年に設立された「生協しまね」まで、全国都道府県に市民参加型生協ができる流れです。それが第一の段階です。第二段階は、1990 年代からと捉えてはどうかと考えています。第一段階は創設と成長の時代でした。その成長が 1990 年代に入って、ある意味で止まります。1992 年にバブル経済が崩壊し、平成不況が始まりました。それを背景として生協の総事業が、1998 年をピークに低迷し始めました。特に購買事業は、1998 年をピークに下降し始め、総事業高は福祉と共済でやっと持ち直したという構造です。第二段階は、1990 年代から現在までと見ています。その中で、A 段階では 1999 年までで、平成不況の中で、同質化競争が広がりました。B 段階は 2000 年から現在までで、生協らしい固有の価値をつくり続けようという思いの個人や集団が現れ、生協ならではの価値をつくりたいと自己革新を続け模索しています。三つ目の潮流は、様子見という潮流です。今後、

自己革新を果たして、生協の価値を失いたくないというのが本当の潮流になっていくのだと思います。その時のキーワードはアイデンティティです。生協らしさ、やっぱり生協っていいねと組合員から認められる存在、そういう価値を丹念につくり上げるということです。そして期待される 4 つの価値創出は、以下の通りです。

①消費と市民の側からの食糧・農業・漁業、資源と環境問題へのアプローチ

②グローバル経済・競争至上主義、情報化社会への社会的公正なもう一つのあり方への革新

③地域社会において、社会的な協働の相互扶助システム（つながりと助け合い）としての価値と機能を地域社会に広げる

④人間復興＝ルネッサンス（人間らしさの創造）をお越し、協同と連帯を育み、一人ひとりの自己実現が得られる市民社会の建設

2. 深刻な格差と人間疎外…期待される

参加型社会システムとしての生協の場の創造 ～格差と疎外の社会と向き合う

参加型の社会システムづくり

ひとつの大きなキーワードは、人間疎外だと思っています。人が個で存在していて、寂しい、「助けて」という時代に入っています。人と会話しない、文字・画像でコミュニケーションするという、コミュニケーション疎外が生まれています。また、若者たち、子どもから青年の自殺が増えています。15 歳から 34 歳の死因で自殺率がトップで 16.3%です。

3. 共同購入事業の現状と未来への課題

生協の組合員に「イオンと生協、何が違うの」と言われました。イオンも、福祉、教育、環境に取り組んでおり、法人発で、提供型でやっています。生協も同様です。参加型ではない構造が、イオンと同じに見えるわけです。参加の世界をどうやってつくるかが問われています。

共同購入事業の現状は深刻です。全国の生協が低迷しています。その要因は、一人当たりの利用点数の低迷が止まらないことです。注目しないといけないうのは、40 歳以下の組合員の利用構成比が低いことです。共同購入、コミュニティ購買の価値を守り続け、人がコミュニケーションする関係性を大事にしてほしいと思います。

4. 終末を迎える団塊の世代以上の増大と

出資金減少の課題

2020 年には団塊の世代がすべて 70 歳を超えます。男性の平均寿命は 80 歳ですから、10 年経つと亡くなっていきます。40 歳代以下をどう増やすかとともに、高齢の組合員が亡くなって危機的な状況にならないようにしないとけません。すぐやらなくてはいけないのは二つあり、一つは、若い組合員さんが次々加入する状況をどうつくるかです。二つ目は、今ある出資金を未来のプロフィット、利益のためにどうやって生きた投資にするかです。

20 歳～30 歳代の組合員・市民の

ニーズに基づく共同購入事業（生協）

～フェアトレード・エシカル消費の視点でくらしと生産を持続可能にする商品(価格)を考える

東海コープ事業連合共同購入事業本部

副本部長 岸本 憲一 氏

1. 2019 年度取り組んだこと

(1) ハピハピボックス

地域でお子さんが誕生されたご家庭に、生協商品の詰め合わせをお届けするという試みを今年の 4 月から行っています。

(2) エシカルページ・つながるコープ

商品案内で 4 月から、エシカルページ・つながるコープのページとして、資源状況の厳しい水産物、はぐくみ自慢、栽培自慢の商品をご案内するページをつくりました。

(3) 医薬品の取り扱いがスタート

今年度は新たな取り組みとして、医薬品の取扱を始めました。

2. 利用の状況（4 月～8 月 5 週）

4 月から 6 月、利用者が前年実績の 98.7%で、1.3%が前年実績と比較して低下しています。今年に入ってから年代別利用の推移を見ると、30 代、40 代の利用者が大きく減少しています。反面、70 代、80 代以上の利用は増えています。

現状と課題（悩み）の報告

～我が家の共同購入商品を組合員と一緒に調べて見つける職員による「良質で深みのある商品情報」の学びと提供（仕事）のあり方～

生活協同組合コープぎふ共同購入事業部 部長

辻 圭介 氏

1. コープぎふの到達点

コープぎふの現在の利用者数は、前年の 98.6%です。供給高に関しては 98%を割って

ます。かなり厳しい状況です。

2. 利用形態の変化

利用形態の変化で言うと、2018 年度では 34%が班共同購入利用でしたが、12 年前の 2006 年には 50%が班共同購入でした。支所の事例で、他の方がやめられた方があっても、組合員さんで班を継続したいという人がいて、班を維持する取り組みができ、前年を超えたということがありました。

3. 昨年度加入組合員さんの

今の利用状況について

昨年度の加入 7,800 人位の内、今年の 7 月度に利用された方を見ると、60%の方でした。30 代、40 代の方は、加入は多くありますが年代別の利用人数の比較では前年を下回ります。

4. 悩みと課題と考えること

共働きが多く、組合員の 7 割以上が仕事をしている状況で、その方が利用を休むことと、脱退することとイコールとしていないかということが課題と考えます。

地域を知り組合員・市民のニーズに基づく「生協事業・共同購入事業」を考える

共同購入事業を通じて

「人と人のつながりを紡ぎ直す取り組み」
生活協同組合コープみえ 伊賀地域 統括部長

日笠 博幸 氏

1. コープみえにおける共同購入事業の現状

コープみえにおける供給高は 2008 年 186 億円、2013 年度 194 億円、2018 年度 203 億円と推移しています。その中で無店舗事業の占める割合は下がってきています。

2. 組合員の年代推移

組合員の年代推移は、30 代の組合員が、2012 年から 2019 年の 7 年間に減少しています。40 代も 2019 年度は減っています。50 代以上は増えている状況です。

3. 地域担当の思いから

業務時に自宅裏で座り込んでいた方を発見し、ご近所にお伝えするなど、地域に寄り添った対応を実践している地域担当がいます。地域の課題を解決できるのは、地域の方と、私たち生協ではないかと思えます。

4. 今後の目指す方向

困った時に、いかに生協を頼っていただけるかが今後の課題です。

情報クリップ



NAVI 2019.10 No. 811

生協 10 の基本ケア 自立と尊厳を守る福祉事業の挑戦

日本生活協同組合連合会 2019 年 10 月、A4判、36 頁、360 円

特集 生協 10 の基本ケア

自立と尊厳を守る福祉事業の挑戦

<組合員さんが語る私の生協ライフ>

生協しまね

<コープのある風景>

大阪よどがわ市民生協

<世界と日本の協同組合>

サイゴンコープ (ベトナム)

<今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見>

コープぎふ 小野祐二郎さん

<日本全国 宅配現場におじゃまします!>

エフコープ

<想いをかたちにコープ商品>

CO・OP たらん甘酢あんかけ (骨取り)

<いつでもどこでも 地域とくらしを支えます>

みやぎ生協

<生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP 商品>

CO・OP 朝の応援食 ミックスキャロットドーナツ

<明日のくらし ささえあう CO・OP 共済>

日田市民生協

<ZOOM IN 生協の店舗づくり>

コープしが コープかた店

<この人に聴きたい>

コミュニティデザイナー 山崎 亮さん

<くらし丸ごと応援! コープの事業>

大阪いずみ市民生協 (電気小売事業)

<ほっと navi>

コープこうべ 愛媛大学生協

生協運営資料 2019. No. 309

購買事業の成長の両輪として新規加入と利用定着に取り組む

日本生活協同組合連合会 2019 年 9 月、B5判、96 頁、870 円

巻頭インタビュー ●わが生協かくありたい!

現場目線で組合員のくらしと職員の働き方を見つめ

地域における生協の役割を考える

コープえひめ ●代表理事 理事長 美濃欽也氏

4 ID-POS データによって顧客志向の売場づくりを実践

現場の支援に徹し、人口減少社会に対応した事業を目指す

コープさっぽろ ●マーケティング 部長

川崎正隆氏

特集

購買事業の成長の両輪として

新規加入と利用定着に取り組む

1 子育て世代に寄り添う「はじめてばこ」を

通して子育て世代を理解し、お役立ちを考える

エフコープ ●無店舗支援部 部長 山上和則氏

推進部 課長 伊藤夏海氏

担当 小金丸志穂氏

2 震災による採用難を契機に現場のリーダー層を育成

やり切るマネジメントで高い利用登録率を実現する

いわて生協 ●常勤理事 熊谷 修氏

共同購入事業部 部長 吉川兄一氏

共同購入運営部 課長 向ロー馬氏

3 「お仲間づくり」にマーケティング・オートメーシ

ョンを活用 インターネットへのシフトを進め、

顧客価値の増大を目指す

ユーコープ ●宅配運営部 宅配営業企画課 課長

神屋敷 覚氏

連載

●これからの店舗事業のあり方を考える

第 20 回 競合店がひしめく人口密集地で、立地条件に

合った 売場づくりとここでしか買えない商品を訴求

する

コープみらい ●常務執行役員・店舗事業本部長

兼 店舗商品 統括部長 大川昌彦氏

●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ

第 33 回 コスト増や人手不足などの困難を乗り越える

施策を 宮城から福島、そして東北全体へ展開する

コープ東北サンネット事業連合 ●

執行役員・共同購入運営本部長 兼

みやぎ生協 共同購入運営部部長 尾川輝敏氏

共同購入運営本部トレーナー 小野寺史記氏

特別企画

スマホアプリが実現するたすけあいの地域社会づくり

～つながり・助け合い・未来の第一歩～

コープこうべ ●情報・物流推進部

インターネット・デジタル推進 統括

浜地研一氏

月刊 J A 2019.10 vol. 776

全国農業協同組合中央会 2019 年 10 月、A 4 判、48 頁、年間予約 5,204 円（消費税込）

スゴイ農業、スゴイ J A

J A 自己改革の現場から

結集力強化戦略で組織的かつ戦略的に組織基盤を

強化する

—— J A あいら（鹿児島県）の取り組み

西井賢悟

J A・農政トピック

一般社団法人 AgVenture Lab（アグベンチャーラボ）の
取り組みについて考える

一般社団法人 AgVenture Lab

きずな春秋——協同のこころ——

童門冬二

私のオピニオン

田中優子

令和元年度 J A 営農・経済担当常勤役員・幹部研修会を終えて
（第 5 回 J A 営農・経済フォーラム）

脇岡弘典（J A 全中常務理事）

「あきたこまちが北海道へ」で

関心を持った食料安保問題

米澤 文

協同組合と SDG s 第 7 回

SDG s と J A ふくしま未来

菅野孝志（J A ふくしま未来 代表理事組合長）

海外だより [D.C.通信] 連載 101

日米貿易協定に関するアメリカ国内の反応

伊澤 岳

平成 30 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介

修了論文大賞 組合員と共に新たな価値を生み出す

南 陽介 / J A 兵庫六甲（兵庫県）

生活協同組合研究 2019.10 No. 525

乳製品をめぐる最新情報

公益財団法人 生協総合研究所 2019 年 10 月 B5 判 64 頁

展望 J A の進むべき道

■ 巻頭言

大学生協連発足 60 周年

吉田元夫

特集 乳製品をめぐる最新情報

日本における乳製品の生産と供給の課題

小林信一

牛乳・乳製品の国内消費の変化と

最近の国際市場の動向

小田志保

牛乳・乳製品と健康

上西一弘

子どもと大人の牛乳アレルギーと対応について

伊藤節子

生協と牛乳のかかわりの変遷と現在

鈴木 岳

■ 連載 フォーカス くらしと社会の最新情報⑦

NPT 再検討会議と核兵器廃絶をめぐる最新動向

堀内聡子

■ 連載 協同組合系研究所の逐次刊行物より⑦
『信金中金月報』

久保ゆりえ

■ 継承・発信 平和の取り組み③

千葉県生協連 70 周年記念事業

「子どもたちに平和な未来を 2019」を開催しました

小田川和恵

■ 研究と調査

大学生の自然災害に対する危険認識と

対応行動の現状

水木千春・朴 恵淑

■ 本誌特集を読んで（2019.8）

白井和宏／毎田伸一

● アジア生協協力基金 2020 年度・助成金

一般公募のご案内

● 2019 年度生協総研賞

第 12 回「表彰事業」受賞作

文化連情報 2019.10 No. 499

SDGs 誕生の軌跡

日本文化厚生農業協同組合連合会 2019 年 10 月、A5 判、72 頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

農協組合長インタビュー (60) 収支と協同組合精神のバランスを保つ 市村幸太郎	岡田玲一郎の間歇言 (157) 当たり前だが時代は変化する 岡田玲一郎
医療品増加とその背景・課題から 薬剤選択と購入の今後を考える 兼田 健	野の風●日本ワインとの出会い 奥村由紀子
院長リレーインタビュー (314) 県境の最後の砦、 救命救急を軸に若い医師の集まる病院に 野村明広	デンマーク&世界の地域居住 (125) 「活動したくなる地域づくり」(秋田県小坂町2) 松岡洋子
二木教授の医療時評 (172) 「地域共生社会」は理念と社会福祉施策との「二重構造」 一地域共生社会推進検討会「中間とりまとめ」を読ん での気づき 二木 立	熱帯の自然誌 (43) ボルネオは病気の巣窟? 安間繁樹
インタビュー 介護保険制度の 20 年を考える (3) 介護保険制度と地域包括ケアシステムの構築? 堤 修三	◆第 6 回厚生連放射線科医療機器 ライフサイクルコスト会議開催のお知らせ ◆第 7 回厚生連診療情報管理士研修会開催のお知らせ □自著を語る 共済事業の源流をたずねて 小磯 明
インタビュー SDGs と日本での取り組み (上) SDGs 誕生の軌跡 稲葉雅紀	▶ 線路は続く (135) 11 月にお別れ上野モノレール ／ 西出健史
多様な福祉レジームと海外人材 (18) 技能実習制度 (フィリピン) 安里和晃	▶ 最近みた映画 帰れない二人 ／ 菅原育子
医療材料選定検討会議報告 小林裕幸	
第 4 回西日本地区厚生連 医療材料共同購入委員会開催 齋藤 壘	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

10 月の地域と協同の研究センター活動

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 日(火) 名城大学「ボランティア入門」③、第 5 回常任理事会 | 18 日(金) 市民の講座運営委員会 |
| 2 日(水) 研究フォーラム職員の仕事 | 20 日(日) 子どもの学習支援研究集会 |
| 4 日(金) 金城学院大学「協同組合論」③ | 22 日(火) 研究フォーラム地域福祉世話人会、三河地域懇談会西尾センター見学会 |
| 5 日(土) 共同購入マイスター④ | 24 日(木) 協同の未来塾⑥、愛知の協同組合間協同相談会、尾張地域懇談会世話人会 |
| 7 日(月) NEWS 編集委員会 | 25 日(金) 組合員理事ゼミナール⑦、金城学院大学「協同組合論」⑥ |
| 8 日(火) 名城大学「ボランティア入門」④、三重地域懇談会世話人会 | 29 日(火) 名城大学「ボランティア入門」⑥、名東区支えあい交流会準備会 |
| 10 日(木) 第 4 期協同の未来塾修了者実践交流会 | 30 日(水) 研究フォーラム環境世話人会 |
| 11 日(金) 協同の未来塾⑤、金城学院大学「協同組合論」④ | 31 日(木) 常任理事会、三河寄らまいかん実行委員会 |
| 15 日(火) 名城大学「ボランティア入門」⑤ | |
| 16 日(水) 第 6 期協同の未来塾開講検討会議 | |

企画案内

2109年第9回地域づくりセミナー

女たちのサードプレイス

2019年12月1日（日）

セミナー 14:00～17:00 懇親会 17:30～19:00

本セミナーは「女性の集まる場所」を作り出したお二人を講師にお招きし、その経験をお話ししていただき、その実態について皆さんと議論することで、現代社会の問題を考えていこうと思います。

会場：秋葉神社（名古屋市瑞穂区瑞穂通1丁目35番）

名古屋市立大学桜山キャンパス南 地下鉄桜通線桜山駅4番出口すぐ

セミナー無料 懇親会1,000円

第1部：生き心地の良いまちづくり 講師:フリースペースK 釘宮順子氏

第2部：子育てシェアをつくる取り組み 講師:マザーズライフサポーター伊藤理恵氏

第3部：二つの取り組みについて研究する大学院生を交えて皆さんと議論

司会：佐野直子（名古屋市立大大学院准教授）

主催：名古屋市立大学大学院 人間文化研究科 <https://www.region-ncuhum.com/>

申込・問い合わせ 名古屋市立大学院人間文化研究科 地域文と共生コース

region@hum.nagoya-cu.ac.jp

地域と協同の研究センター11月の予定

1日(金)	金城学院大学「協同組合論」⑦	19日(火)	名城大学「ボランティア入門」⑨
5日(火)	名城大学「ボランティア入門」⑦	21日(木)	研究フォーラム食と農世話人会、名古屋市立大学寄付講義ふりかえりの会
8日(金)	金城学院大学「協同組合論」⑧	22日(金)	金城学院大学「協同組合論」⑩
11日(月)	NEWS編集委員会、くらしを語りあう会	26日(火)	名城大学「ボランティア入門」⑩、第3回未来塾検討会議
12日(火)	名城大学「ボランティア入門」⑧	28日(木)	協同の未来塾⑦
15日(金)	金城学院大学「協同組合論」⑨	29日(金)	金城学院大学「協同組合論」⑪
16日(土)	共同購入マイスター⑤		

地域と協同の研究センターNEWS182号

発行日2019年10月25日定価200円（税・送料込み）
年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸 城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-3-9 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>